

IDC MarketScape

IDC MarketScape: Worldwide Unified Endpoint Management Software for Apple Devices 2021 Vendor Assessment

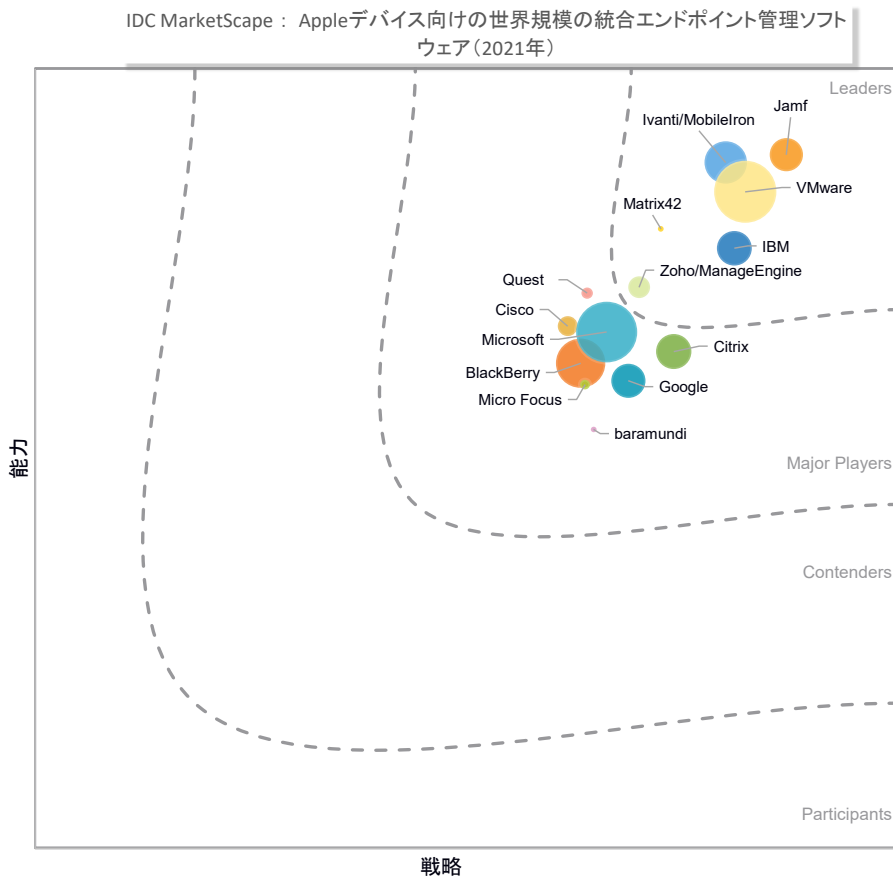
Phil Hochmuth

IDC MARKETSCAPE EXCERPT FEATURES : JAMF

IDC MARKETSCAPE FIGURE

FIGURE 1

IDC MarketScape: Worldwide Unified Endpoint Management Software for Apple Devices 2021 Vendor Assessment



Source: IDC, 2020

詳細な調査方法、市場の定義、ベンダーのスコアリングの評価基準については、「補遺」のセクションを参照のこと。

調査概要

本 Excerpt (抜粋版) の内容は、『*DC MarketScape: Worldwide Unified Endpoint Management Software for Apple Devices 2021 Vendor Assessment* (IDC #US46965620, 2021年1月発行)』から直接抜粋したものである。本 Excerpt には「IDC の見解」「IDC MarketScape ベンダー選定の基準」「IDC の提言」「ベンダープロフィール (要約)」「補遺/参考資料」のセクションの一部または全部に加えて、Figure 1 が含まれる。

IDC の見解

iPhone、iPad、Apple TVに加え macOS 搭載端末など、Apple のデバイスが急激にビジネスで活用され始めたことから、多くの企業が、端末の配布や、管理、セキュリティを全体的に見直す動きを強めている。Windows PC は、長年に渡って企業における主要なコンピューティングプラットフォームであり、ビジネス用 PC の大半に使用されている。しかし、エンドユーザーの好みや、クラウドをベースとしたビジネスソフトウェアやツールへのシフト、つまり OS に依存しない環境の拡大によって、Apple のデバイスにはこれまで以上のビジネスチャンスが訪れている。

複数の調査から、(従業員規模 1,000 人以上の) 企業においては、Mac の利用が普及しつつあることが分かる。IDC の 2019 年と 2020 年の調査「*Enterprise Mobility and Workspace Software Surveys*」では、米国では macOS デバイスの平均普及率は 2019 年の 17% から 2020 年では約 23% に上昇した。IDC の調査データ「*Worldwide Personal Computing Device Tracker*」では、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大および在宅勤務者向けのデバイスの急激なニーズに後押しされたこともあり、Mac デバイスの企業セクター (従業員数 1,000 人以上の企業) への出荷は、第 2 四半期には前年同期比 34% の急増となった。ビジネスアプリケーションやリソースへのアクセス要求の急増をもたらしたこの新しい Mac デバイスの波は、これまで Windows デバイス管理に焦点を合わせてきた企業エンドユーザーのコンピューティングサポートチームおよび管理チームの多くに何らかの混乱を引き起こしている。

統合エンドポイント管理 (UEM : Unified Endpoint Management) に関して生じた多くの事業成長の背景には Windows 10 の採用と「最新式管理 (modern management)」あるいは Windows の MDM プロトコルを介したクラウドベースの提供/制御への移行、という動きが存在した。しかし、Mac の基本的な管理方法へのシフトは、UEM プラットフォームを使った強力な構成管理およびポリシー施行の機会も作り出している。Apple のモバイルデバイス管理 (MDM Mobile Device Management) プロトコルとテクノロジーには、OS X v10.7 まで遡ることが可能な macOS デバイスのプロビジョニング機能と管理機能が存在する。しかし、Windows 管理の UEM への移行と同様に、Mac 管理の最新ではない方式、つまり、エージェントベースの管理、デバイスのイメージング、カスタムスクリプトなどはロングテールとも言える状態にあり、それぞれのサイズは限定的であるものの全体ではそれなりの規模があり、このことは、特に Mac を長期に渡って使用している企業では顕著な傾向である。

もちろん、Mac は、企業内に存在する Apple 製デバイスのすべてではない。IDC の 2020 年の企業ユーザー調査では、iPhone は米国企業において導入されているスマートフォンの 49% を占め、iPad は業務用タブレットの大部分を占めている。Apple は、Apple Business Manager プログラム (以前は、Device Enrollment Program や Volume Purchasing Program と呼ばれていた) を利用して、自社のすべてのビジネス向けデバイスとサードパーティの UEM ツールの調達、プロビジョニング、そしてサードパーティの UEM ツールとの統合を容易にしている。UEM ソリューションを提供するプロバイダーの多くはこれをサポートしており、さらに、Apple のその他のデバイス管理機能についてもサポートしている。本調査レポートでは、Mac と他の Apple のデバイスに対して特に重点を置いた UEM 導入市場を調査している。この調査では、主に以下の知見が得られた。

- Apple Business Manager を通じたデバイスの調達、およびモバイルデバイス管理 (MDM) ベースの Mac および iPhone/iPad のサポートを受けている場合には、UEM ベンダーによるサポートは強力である。

- エージェントベースの管理などレガシー（従来型）な Mac 管理を求める声は大きく、特に大規模な Mac ユーザーを抱えるビジネスからの要求は強い。
- この調査でインタビューを受けた UEM 顧客の多くは、Windows、iOS および Android デバイスを管理するツールに加えて、Mac デバイスを管理するための別のプラットフォームを使用していた。

IDC MARKETSCAPE ベンダー選定の基準

IDC は、次の重要な基準を満たすベンダーに、この調査への参加を依頼した。

- PC、ノートブック PC ならびにモバイルデバイス（スマートフォンとタブレット）のためのデバイスおよびアプリケーションの管理機能を提供する UEM スイートベンダーであること
- 2019 年の UEM 製品収益が 500 万ドル以上であるベンダーであること。また、収益は 2020 年 5 月に見積もられた収益であり、これ以降の市場シェアレポートの数字とは異なる可能性がある。

本調査で取り上げられたベンダー以外にも、UEM 市場において、本調査の選定基準を満たしてはいないものの、相応な製品を有する他のベンダーも多く存在する。これらのベンダーとして、Addigy、Amtel、HCL Technologies、Hexnode、Kandji、Prey Software および Verizon が挙げられる。

IT バイヤーへの提言

- **基本的なモバイルエンドポイントサポート**：PC に対するサポートに加えて、UEM プラットフォームの中核的なモビリティ機能は、MDM、MAM および MCM の分野に存在する。中核的な機能コンポーネントには、セキュアな PIM、DLP およびファイルアクセスの制限、アプリのラッピング、SDK 機能も含まれる。UEM プラットフォームは新しいユースケースおよび管理タスクへの展開が進んでいるが、これらのコアな UEM プラットフォーム機能は依然として基本的な要件である。
- **顧客の成功のための強力な UEM 能力とロードマップ**：今日の UEM プラットフォーム上の管理対象デバイスは、スマートフォンおよびタブレットが多くを占めるが、UEM にとって、ラップトップと PC（それぞれに Windows と Mac が含まれる）さらに新興の Google Chrome OS デバイスを管理対象に加えることの重要度が増している。グループポリシーオブジェクト（GPO：Group Policy Object）および PC イメージング管理フレームワークの移行がサポート上の重要な課題であるが、パッチ適用と UEM ベースの最新管理に向けたソフトウェア配布のモダナイゼーションも重要な課題である。
- **隣接する、または補完的な IT 製品、サービス、ソリューションの強力なポートフォリオ**：このテクノロジーを導入しているユーザーによると、UEM プラットフォームとの密接な統合を実現するには、アイデンティティ、クラウドアクセスセキュリティブローカー（CASB：Cloud Access Security Broker）、IT サービス管理、IT 資産管理、ネットワークセキュリティ、エンドユーザー生産性アプリなどのソリューションのすべてが重要である。
- **レガシーおよび最新の PC 管理をサポートする幅広い機能**：PC ライフサイクル管理（PCLM：PC Life-Cycle Management）および従来型（レガシー）管理への大きな期待が存在するということは、最新のエンドポイント管理シナリオだけでなくレガシーについても対応できるソリューションが、企業への展開にとって最大の価値を持つことを意味する。
- **ワークスペースインテリジェンスとアナリティクス**：エンドポイントとエンドユーザーのアクティビティに関するこのような広い視点から、UEM プラットフォームは、従業員の挙動およびデバイス、アプリケーション、データの各々の利用パターンならびにソフトウェアのパフォーマンスと可用性の分析に関するデータ収集とアナリティクスのコアになりつつある。これらの重要な指標に関わる強力なアナリティクス機能とレポート機能を提供する UEM ベンダーは、この分野に出遅れているベンダーに対し競争優位を獲得することになるであろう。

- **会社支給ではないデバイスのユーザー（BYODユーザー）をサポートする機能**：従業員のパーソナルモバイルデバイス、つまり BYOD（Bring Your Own Device）に対するサポートは、UEMプラットフォームのシェアと全般的な管理範囲を拡大させる上で重要である。企業の90%以上がBYODを容認しているため、企業は、自社所有のデバイスと同じレベルの詳細なポリシー施行、セキュリティおよびこれらのデバイスによってアクセスされるアプリとデータに対する制御を、これらのBYODに適用できるツールを見つけなければならない。
- **条件付きアクセス制御とポリシー施行のきっかけ**：これは、UEMプラットフォームの重要な機能になりつつある。どのようなアプリケーションやデータまたは他のリソースにユーザーが接続できるか、また利用できるかの条件付きアクセス制御は、ロケーション（GPSロケーションとネットワークのコネクションのタイプ）、日付、エンドユーザーのIDと役割（ロール）、ならびに使用されているデバイスの状態または健全性（ジェイルブレイク/root化されたデバイスであるか、または最新アップデート未対応のOS）など多数の要素に基づいている。
- **スケーラビリティとクラウドベースの配信機能**：ほとんどのベンダーが何らかのレベルでこの配信モデルに対応していることから、クラウドはUEM市場の未来であると言える。SaaSベースのUEMは、エンタープライズモバイルコンピューティングにおけるモバイル/クラウドの協働（シナジー）にうまく噛み合っており、企業は、オンプレミスのサーバを導入して稼働、維持、ITリソースのサポートなど、一切の手間をかけることなく、モバイルデバイスがどこにあろうともUEM機能をフレキシブルに導入できる。多くの企業が依然としていくつかのアプリケーションをオンプレミスで稼働させる必要があり、特に金融および政府のようなセキュリティに敏感な産業、またはさらに厳しいクラウドデータプライバシー規制を持つEU諸国においては、それが必要であることから、ハイブリッドは依然としてUEMが備えるべき重要な要素である。

ベンダープロフィール（要約）

本セクションでは、本 IDC MarketScape におけるベンダーのポジションを導き出すに至った IDC の重要な見解を簡単にまとめている。なお、各ベンダーのポジションは、「補遺」のセクションにまとめた評価基準に基づいて評価しているが、本セクションでは、ベンダーの強みと課題について述べる。

Jamf

Jamfは、Appleのデバイス管理に関する、世界のUEMソフトウェアを対象とした調査「2021 IDC MarketScape」においてリーダー（leader）のポジションとなった。JamfのApple Enterprise Managementソフトウェアは、Appleのエンドポイント（macOS、iOS、iPadOS、tvOSおよびwatchOS）のみをサポートしている。Jamf Proはクラウドまたはオンプレミスソフトウェアプラットフォームであり、対象をmacOSに絞り込み、Appleのオペレーティングシステム向けに極めて高度な管理機能を提供している。Appleにのみ限定特化したために、JamfはUEM分野全体に大きく手を広げられないという限界があるが、このAppleに特化した戦略のほとんどは間違いではなかったと検証されている。この調査のためにインタビューを受けた多くの企業は、Windowsやモバイルデバイス管理のための他のUEMソリューションと併せて、JamfをMac管理専用に使っていると述べた。2020年7月、同社は株式公開を行い、その後に株式評価額は20%増となった。IDCの「Worldwide PC Tracker」では、パンデミックに伴うロックダウンや自宅勤務の動向に伴いPC需要が増加したため、Macの出荷は世界で二桁成長を示した。これは、一部には、企業IT部門向けにMac管理に対する需要に拍車をかけた。

また、同社は独自のアイデンティティ管理プラットフォーム「Jamf Connect」（2018年に買収したNoMAD社ベース）を有しており、クラウドアイデンティティプラットフォームへのMacの統合を完了している。また、エンドポイントセキュリティおよびコンプライアンスツール「Jamf Protect」（2019年にDigi Securityから取得したテクノロジーに基づくMac向けツール）も提供している。Mac用のサードパーティのエンドポイントセキュリティツールとは異なり、Jamf Protect

は大規模な Jamf プラットフォームと密接に統合されており、Mac 用のアンチウイルス、脅威防御、脅威アナリティクスおよび UEM とセキュリティ管理を結びつける自動脅威対応シナリオを提供する。また、同社は、Apple のデバイス管理を教育 IT サービスの管理とサポートの他の要素と統合した、教育に焦点を合わせたソフトウェアパッケージ (Jamf School、旧 ZuluDesk) も提供している。

強み

同社が Apple 製品に特化したことによって、Apple の新しい Mac、iPhone/iPad、Apple TV のすべてのデバイスをサポートする機能を、Apple の新製品発表イベントで発表されたその日にリリースできる。Jamf は、Apple テクノロジーロードマップについて特別に社内的にアクセスしているだけでなく、R&D およびエンジニアリングリソースのすべてを macOS/iOS/iPadOS/tvOS 機能のサポートに集中させて迅速に開発を進めることで、新製品発表イベントに合わせた製品リリースを実現できる。

Jamf は、Mac 固有の ID およびセキュリティ製品を組み合わせ、Mac 管理機能の最も広範に及ぶ機能セットを用意している。

Jamf は、医療 (具体的には EPIC と呼ばれる米国を中心に広く使われている医療向けアプリケーションとの連携を指す)、小売、輸送、政府、教育ソリューション (Jamf 自身およびパートナーの製品/サービスを含む) に、iPad と iPhone を統合するための業界に特有なソリューションおよびソフトウェアプラットフォームとの強力なインテグレーションを有している。

また、基本的な機能のみを必要とする企業に対しては、Jamf Now は、中小企業の MDM ニーズや、規模は大きい管理のニーズは複雑ではない環境向けに設計されたクラウドベースの MDM ソリューションを提供している。

課題

Jamf プラットフォームは広範かつ強力であるが、この調査で IDC のインタビューを受けた顧客は、プラットフォームから完全な価値を引き出すには、環境に多くの時間を過ごし込み、継続的なトレーニングとサポートサービスが必要であると述べた。このフィードバックを受けて、Jamf は、最近、その顧客を対象にして何百本ものトレーニングモジュールを揃えた無料の仮想トレーニングカタログを導入した。

この調査のインタビューを受けたいくつかの企業は、MDM ベースの基本的な Mac 管理機能しか必要としない場合には、他の UEM が好ましいと述べた。

Jamf を検討するタイミング

Mac ベースのみという環境にある企業は、最初に Jamf を検討すべきである。また、かなり (100 台を超えるデバイス) の Mac ベースデバイスがインストールされている場合も、Jamf を検討すべきである。デバイスコンプライアンスのためのマイクロソフトを含む他の UEM プラットフォームとの統合によって、Jamf 上の Mac (またはすべての Apple のデバイス) と他の UEM プラットフォーム上の Windows/Android エンドポイントのために柔軟で生産的な共同管理シナリオが可能になる。

補遺

IDC MarketScape Graph について

IDC では、企業の成功の可能性を示す主要な指標をケイパビリティ (能力) と戦略の 2 つのカテゴリーに分けて分析している。

Y軸は、サービスメニューや顧客ニーズへの貢献度のような、ベンダーの現在のケイパビリティを示す。このケイパビリティは、現在の企業や製品の能力に関するものである。このカテゴリーに基づき、IDCアナリストは、市場戦略を遂行する上で、こうしたケイパビリティをどのように築き上げ発揮しているかを分析している。

X軸は、ベンダーが3~5年後の将来に、顧客からの要求に応えられる度合いを示す戦略軸である。この戦略軸は、高度なレベルの意思決定や製品/サービス提供、顧客セグメント、事業に関する計画、3~5年後の顧客への製品/サービス提供計画に関するものである。

IDC MarketScape での個々のベンダーのバブルの大きさは、評価の対象となっている特定の市場セグメントにおける各ベンダーの市場シェアを表している。

IDC MarketScape 調査方法

IDC MarketScape の評価基準、重み付け、ベンダースコアは、市場やベンダーに関する十分な調査に基づいた IDC の判断によって設定されている。IDC アナリストは、標準特性の範囲を定め、その基準に基づき、市場のリーディングベンダー、市場参入ベンダー、エンドユーザーとの議論、サーベイ、インタビューを通して、ベンダーの評価を行っている。市場の重み付けは、各市場に関するユーザーインタビュー、バイヤー調査、IDC の専門家で構成される委員会のレビューに基づき行われている。IDC のアナリストは、詳細な調査、ベンダーへのインタビュー、公開情報、エンドユーザーの経験に基づいて、各ベンダーの特性、行動、能力に関する正確で一貫性のある評価を行うことで、個々のベンダーのスコア、IDC MarketScape における最終的なポジショニングを提供している。

市場定義

統合エンドポイント管理 (UEM) は、クライアントエンドポイント管理機能ソフトウェア市場中のテクノロジーサブマーケットカテゴリーに属する。UEM ソリューションは、最も一般的なエンドユーザーコンピューティングのオペレーティングシステム (たとえば、Windows、macOS、iOS、Android、Chrome OS など) とデバイスタイプの管理機能とプロビジョニング機能を単一のソフトウェアプラットフォームに統合している。UEM 製品は、定義に基づき、モバイルおよび PC エンドポイントの双方を管理できなければならない。このため、次に示すような従来のレガシーなプラットフォームは除外される。たとえば PC ライフサイクル管理 (PCLM)、PC イメージングソリューションおよびモバイルデバイス管理 (MDM) などは含まれない。

参考文献

関連調査

- *Worldwide Unified Endpoint Management Software Forecast, 2020-2024* (IDC #US46460520、2020年9月発行)
- *IDC TechScape: Worldwide Intelligent Digital Workspace, 2020* (IDC #US46763120、2020年8月発行)
- *Worldwide Unified Endpoint Management Software Market Shares, 2019: Endpoint Management Convergence Drives Market Growth* (IDC #US45173520、2020年6月発行)

Synopsis

本調査レポートは、IDC MarketScape モデルに基づき、Apple のデバイスの統合エンドポイント管理 (UEM) ソフトウェアを提供しているプロバイダーのベンダー評価を行っている。この評価では、UEM ソフトウェアに対する現時点での市場の需要および予測されるバイヤーのニーズを示す特性を定量的および定性的にレビューする。この評価は、各ベンダーを他のベンダーと相互に比較するための包括的かつ厳格な枠組みに基づいており、この枠組みは、Apple のデバイス管理のための UEM 市場において、短期および長期に渡る成功を収めるために最も重要であると予測される主要な因子に焦点を合わせている。

「Apple のデバイス（Mac のみならず iPhone、iPad、Apple TV）を強かにサポートすることは、UEM ソフトウェアプロバイダーにとっては必須の条件になりつつある」と、IDC の Enterprise Mobility and Client Endpoint Management 部門のプログラムバイスプレジデントである Phil Hochmuth 氏は述べている。さらに、同氏は「ビジネスユーザーの間に Mac の利用が広がることで、リモートワークの社員が自分でデバイスを選択できる環境にある場合は特に、iOS/iPadOS、tvOS と共に、macOS 関連の管理ツールと戦略の正式採用を促す圧力が企業に対し強まっている」と語っている。

IDC 社 概要

International Data Corporation (IDC) は、IT および通信分野に関する調査・分析、アドバイザリーサービス、イベントを提供するグローバル企業です。50年にわたり、IDCは、世界中の企業経営者、IT 専門家、機関投資家に、テクノロジー導入や経営戦略策定などの意思決定を行う上で不可欠な、客観的な情報やコンサルティングを提供してきました。

現在、110 か国以上を対象として、1,100 人を超えるアナリストが、世界規模、地域別、国別での市場動向の調査・分析および市場予測を行っています。

IDC は世界をリードするテクノロジーメディア（出版）、調査会社、イベントを擁する IDG（インターナショナル・データ・グループ）の系列会社です。

Global Headquarters

5 Speen Street
Framingham, MA 01701
USA
508.872.8200
Twitter: @IDC
idc-community.com
www.idc.com

Copyright Notice

This IDC research document was published as part of an IDC continuous intelligence service, providing written research, analyst interactions, telebriefings, and conferences. Visit www.idc.com to learn more about IDC subscription and consulting services. To view a list of IDC offices worldwide, visit www.idc.com/offices. Please contact the IDC Hotline at 800.343.4952, ext. 7988 (or +1.508.988.7988) or sales@idc.com for information on applying the price of this document toward the purchase of an IDC service or for information on additional copies or web rights. IDC and IDC MarketScape are trademarks of International Data Group, Inc.

Copyright 2021 IDC. Reproduction is forbidden unless authorized. All rights reserved.

